

## 2015年度第2四半期の業績を発表

August 04, 2015

本資料は、米国アッヴィ社が2015年7月24日（米国時間）に発表したプレスリリースを日本語に翻訳し、8月4日、皆様のご参考にご提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料（英文）については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com)をご覧ください。なお、本文中には日本未承認薬に関する情報が含まれています。

### 2015年度第2四半期の業績を発表

- 第2四半期の調整後EPSは1.08ドル（31.7%増）で、前回発表した1.04ドル～1.06ドルの見通しを上回る（GAAPのEPSは0.83ドル）
- 第2四半期の調整後売上高は、前年同期比19.4%増（8.3%の為替レート変動によるマイナスの影響を除く）の54億7,500万ドル。調整前売上高は11.1%増
- 売上高の増加は、ヒュミラの全世界での調整後売上高の16.4%増（8.8%の為替レート変動によるマイナスの影響を除く）。ヒュミラの全世界での調整前売上高は7.6%増
- IMBRUVICAの米国での第2四半期の売上高は2億3400万ドル、四半期の途中からはアッヴィとして、米国で9700万ドルの売上高を記録
- 第2四半期のVIEKIRAの全世界での売上高は3億8500万ドル
- 調整後売上営業利益率は44.2%に向上。総利益率は85.3%に改善
- 2015年度の調整後EPS見通しは、4.10ドル～4.30ドル（GAAPのEPS見通しは、3.26ドル～3.46ドル）に確定

米国イリノイ州ノースシカゴ（2015年7月24日）—アッヴィ（NYSE：ABBV）は、2015年度第2四半期（6月30日終了）の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのリチャード・A・ゴンザレスは次のように述べています。「2015年の前半を通じて高い水準の業績を達成することができ、大変喜ばしく感じています。これは今年、そして来年以降に大きな成長を遂げるという、株主の皆さまに掲げたコミットメントに沿う結果となりました。Pharmacyclics社の買収、弊社の市場製品の継続的な躍進、そして弊社の強固な開発パイプラインの急速な進化により、今後も好調な業績を達成できる体制を十分に整えています。」

### 第2四半期の業績

- 第2四半期における全世界での売上高は、前年比11.1%増の54億7,500万ドルでした。営業ベースの売上高は、8.3%の為替レート変動によるマイナスの影響を除くと、19.4%増でした。
- 第2四半期における売上高の増加は、ヒュミラをはじめとする主力製品の堅調な業績が継続によるものです。ヒュミラの世界的売上高は、営業ベースで16.4%増、為替レート変動による影響を含めると7.6%増でした。三大市場であるリウマチ科、皮膚科、消化器科のすべてで達成した二桁成長に牽引され、米国内のヒュミラの売上高は増加し続けています。今期の米国外におけるヒュミラの調整前売上高は、為替レート変動によるマイナスの影響により、約18%減少しました。2015年度前半の米国外におけるヒュミラの売上高は、営業ベースで約9%成長となり見通しと一致しています。また2015年度のヒュミラの米国外売上高の予想は、営業ベースで9～10%の成長を見込んでいます。第1四半期でも述べたように、第1四半期に米国外で達成した約15%の事業成長率は、一部の市場における出荷のタイミングによるプラスの影響があったためです。結果として、第2四半期の売上高の成長は、出荷のタイミングによるマイナスの影響を受けました。
- 総売上高の増加に関しても、現在47か国で承認され、2015年度中にさらなる承認を得られることが期待されているVIEKIRAの全世界での売上高が3億8500万ドルを記録したことに加え、Creon、Synthroid、Duodopaを含むその他の主力製品の力強い成長に牽引されました。
- 第2四半期の米国におけるIMBRUVICAの売上高は2億3400万ドルでした。四半期の途中からはアッヴィとして、米国のIMBRUVICA売上高9700万ドルを記録し、さらに5月26日に完了したPharmacyclics社の買収に基づく1000万ドルの米国外利益分配を記録しました。
- 第2四半期における調整後売上総利益率は、無形資産の償却費およびその他の特定項目を除き、85.3%でした。売上総利益の伸長は、製品の組み合わせ、業務効率および為替レートの影響に牽引されました。米国の一般会計原則（GAAP）に基づく売上総利益率は、83.3%でした。
- 第2四半期の売上高に占める調整後販売費および一般管理費（SG&A）の割合は、25.1%でした。売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、GAAPベースで31.1%でした。
- 第2四半期の売上高に占める調整後研究開発費（R&D）の割合は、中期および後期パイプラインへの投資を反映し、15.9%となりました。売上高に占める研究開発費の割合は、GAAPベースで17.9%でした。
- 第2四半期の調整後営業利益率は44.2%でした（前年同期は36.4%）。GAAPベースの営業利益率は、33.8%でした。
- 調整後の純支払利子は1億3700万ドルで、これはPharmacyclics社買収に関連して発行された債券による影響を反映するものです。第2四半期における調整後の税率は21.9%、GAAPベースで18.6%でした。
- 第2四半期の調整希薄化後1株当たり利益は、無形資産の償却費およびその他の特定項目を除き、31.7%増の1.08ドルでした。希薄化後1株当たり利益は、GAAPベースで0.83ドルでした。

### 第2四半期の主な出来事

- 5月26日にPharmacyclics社の買収が無事に完了したことにより、がん領域におけるアッヴィの臨床における影響力および商業的影響力が加速されます。今回の買収はアッヴィのビジネスモデルとも戦略的に一致しており、強固なパイプラインをさらに強化し、アッヴィの収益ベースをさらに多様化するものです。
- アッヴィは、ヴァルデンシトレームマクログロブリン血症の成人患者さんを特に対象とした治療薬として承認を受けた初の治療選択肢として、欧州委員会よりIMBRUVICA（ibrutinib）の販売承認を取得したことを発表しました。
- IMBRUVICAの第III相試験であるHELIOS試験から得られた結果は、米国臨床腫瘍学会（American Society of Clinical Oncology：ASCO）にて発表されました。データでは、再発性/再燃性の慢性リンパ性白血病（CLL）または小リンパ球性リンパ腫（SLL）患者さんがibrutinibをbendamustineおよびrituximabと併用した場合に、bendamustineおよびrituximabとプラセボを組み合わせる服用した患者さんと比べ、進行または死亡のリスクが80%減少したことが示されました。
- アッヴィは、ibrutinibと従来の化学療法であるchlorambucilの有効性と安全性を一对一で比較検討した、第III相RESONATE-2試験から得られた素晴らしい結果を発表しました。初期の所見では、治療未経験のCLLおよびSLL患者さんを対象としたibrutinibによる治療は、無増悪生存率を改善し、同時に全生存率および全奏効率を含む複数の副次的評価項目を達成したことが示されています。今後の医学会にて、さらなる詳細なデータを発表し、これらのデータを、2015年後半に規制当局の審査に提出する予定です。

- アッヴィは、Genentech社およびRoche社と共同開発中のB細胞リンパ腫2（BCL-2）タンパク質阻害剤である研究段階の治療薬venetoclaxが、米国食品医薬品局（FDA）より、17p欠損の遺伝子突然変異を有する、治療歴のある（再発性/再燃性）患者さんに対するCLLの治療薬としてブレイクスルーセラピーの指定を受けたことを発表しました。17p欠損変異とは、染色体17が部分的に欠損しているゲノム異常です。17pが欠損したCLL患者さんの寿命の中央値は2~3年を下回ります。アッヴィは2015年末までに米国および欧州の規制当局に、この適応症に関する申請を行う予定です。
- elotuzumabの第III相試験であるELOQUENT-2試験のデータが、先頃New England Journal of Medicine誌にて発表されました。elotuzumabは、未治療の再発性/再燃性多発性骨髄腫を対象に、現在Bristol Myers Squibb社と共同開発を行っています。データでは、再発性/再燃性の多発性骨髄腫の患者さんにおける標準的治療にelotuzumabを追加することにより、進行リスクの著しい減少と、優れた無増悪生存率および全奏成功率が示されています。規制当局への申請は、2015年後半を予定しています。
- アッヴィは、研究段階のインターフェロンを使用しない経口剤のみによるジェノタイプ4型（GT4）C型慢性肝炎ウイルス（HCV）治療薬について、米国におけるFDAの優先審査に指定されました。PEARL-I試験に基づく製造販売承認申請（NDA）は当局により承認されています。PEARL-I試験でdabavirin（RBV）との併用投与後12週のウイルス学的有効率（SVR12）が100%を達成し、有害事象による治療の中止はありませんでした。この研究治療は、過去にブレイクスルーセラピーの指定も受けており、アッヴィは2015年後半での規制当局の判断を期待しています。
- ジェノタイプ1b型（GT1b）C型肝炎ウイルスに慢性的に感染した、肝硬変を伴う/伴わない患者さんに対して、経口剤のみによるRBVおよびインターフェロン非併用の2種の直接作用型抗ウイルス剤（DAA）であるombitasvir/paritaprevir/ritonavirを検討したアッヴィのGIFT-I試験に関する新たなピボタルデータが日本肝臓学会の年次会議にて発表されました。本試験には、未治療または治療経験のある患者さんが含まれます。未治療で肝硬変を併発していない、IFN治療に適切で高ウイルス量のGT1b型C型肝炎に慢性的に感染している成人患者さんのサブグループにおいて、95%のSVR12が示され、主要評価項目が達成されました。副次的評価項目に関する試験結果では、代償性肝硬変を伴うGT1b型HCV患者さんで91%のSVR12が達成されました。アッヴィが開発中の2種のDAAは、現在日本の規制当局で審査中であり、2015年後半に判断が下される予定です。
- アッヴィは、未治療および治療経験のある、代償性肝硬変を伴うGT1b型C型肝炎ウイルスに慢性的に感染している患者さんを対象とするTURQUOISE-IIIの結果を発表しました。この試験のデータでは、RBV非併用のVIEKIRAの投与により100%のSVR12が達成されました。有害事象による治療の中止はありませんでした。長期的に、慢性的にC型肝炎ウイルスに感染した患者さんの約10~20%で代償性肝硬変などの肝臓関連の合併症につながる場合があります。
- アッヴィは、FDAが0~16歳の小児患者さんにおけるC型肝炎ウイルス感染の研究段階の治療薬として、VIEKIRAを希少疾病用医薬品として指定したことを発表しました。希少疾病用医薬品の指定は、希少な疾患や症状に対する治療の必要性を認めるものです。アッヴィは、C型肝炎ウイルスに慢性的に感染している小児患者さんにおけるRBV併用/非併用のVIEKIRAの有効性と安全性を評価する臨床試験を実施する予定です。VIEKIRAは現在、この適応症の承認を受けていません。
- アッヴィは、FDAが痛みの強い慢性炎症性皮膚疾患である中等度から重度の化膿性汗腺炎（HS）の治療薬として、ヒュミラを希少疾病用医薬品に指定したことを発表しました。アッヴィの生物学的製剤追加承認申請（sBLA）は現在、当局において審査中です。先頃、欧州医薬品庁（EMA）の欧州医薬品委員会（CHMP）から、この適応症に対する承認勧告を受領しました。
- アッヴィは先頃、注射の痛みと注入量を減らすために開発された、新たなヒュミラ製剤に対するEMAの承認を取得しました。
- アッヴィは、ぶどう膜炎を有する成人患者さんにおけるヒュミラの有効性と安全性を検証する第III相試験VISUAL-Iの結果を発表しました。その結果、ヒュミラによってコントロール不能なぶどう膜炎および失明のリスクが著しく減少しました。2014年5月、FDAは非感染性ぶどう膜炎に対する研究段階の治療薬として、ヒュミラを希少疾病用医薬品として指定しました。2回目のピボタル試験による肯定的な結果を受け、2015年後半に米国およびEUの規制当局への申請を見込んでいます。
- 6月18日、アッヴィ取締役会は、1株当たり0.51ドルの四半期現金配当を、2015年7月15日の終業時点の登録株主に対して2015年8月14日に支払うことを宣言しました。2013年の会社発足以降、アッヴィの配当は28%上昇しています。

## 2015年度通年の見通し

アッヴィは2015年度の調整希薄化後1株当たり利益の見通しを4.10ドル~4.30ドルとして確定しました。2015年度の調整希薄化後1株当たり利益の見通しには、1株当たり0.84ドルの無形資産の償却費、取引費用、統合およびその他の特定項目は含まれていませんが、Pharmacyclics社買収に関連した希薄化分0.20ドルは含まれています。アッヴィのGAAPベースの希薄化後1株当たり利益の見通しは3.26ドル~3.46ドルであり、Pharmacyclics社買収完了後に確定する特定取引関連費用は含まれていません。

## アッヴィについて

アッヴィは、アボットラボラトリーズからの分社を経て2013年に設立された、研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業です。専門知識や献身的な社員・イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、世界で最も複雑かつ深刻な疾患領域における先進的な治療薬を開発・提供することをミッションに掲げています。アッヴィは、100%子会社のファーマサイクリクス社を含めて世界で28,000人以上を雇用し、170カ国以上で医薬品を販売しています。当社の概要や人材・製品群・コミットメントに関する詳細は[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com) をご覧ください。よろしければTwitterアカウント@AbbVieもフォローください。また、人材情報はFacebookやLinkedInページをご参照ください。

## 非GAAPの業績

2014年度および2015年度の業績に関して、調整前（GAAP）および調整後（非GAAP）の両方で提示しています。調整前の業績はGAAPに従って作成したもので、同期間に計上されたすべての売上高と費用を含んでいます。非GAAPの業績は、特定の非現金項目と予測不能な臨時的要因について調整を行ったもので、それらの費用、支出およびその他の特定項目（以下に掲載する調整表に記載）を除外しています。アッヴィの経営陣は、非GAAPの財務指標はアッヴィの業績に関する有用な情報を投資家に提供し、経営陣、アナリストおよび投資家が業績を評価する際に役立つと考えています。非GAAPの財務指標はGAAPに従って作成される財務指標を補足するものであり、これに代わるものではありません。また、当社の2015年度財務見通しに関しても、調整前と非GAAPベースの両方で提示しています。

## 今後の見通しに関する陳述

本リリースにおける記載には、Private Securities Litigation Reform Act of 1995（1995年米国私募証券訴訟改革法）に示される「今後の見通しに関する陳述」が含まれています。「確信」「期待」「予測」「計画」という言葉およびそれに類する表現は、一般に将来予想に関する陳述となります。当社からの注意喚起として、このような将来予想に関する陳述はリスクおよび不確実性による影響を受け、実際の結果と将来予想に関する陳述での予測との間に大幅な相違が生じる可能性があります。このようなリスクおよび不確実性には、知的財産に対する脅威および他社製品との競合、研究および開発プロセスに特有の困難、敵対的訴訟または政府による介入及び業界に関連する法律および規制の変更などがあります。アッヴィの経営に影響を及ぼす可能性のある経済、競合状況、政府、科学技術およびその他の要因については、Securities and Exchange Commission（米国証券取引委員会）に提出済みのアッヴィの2014年度アニュアルレポート（10-K書式）の1A項「リスク要因」に記載されています。アッヴィは、法律で要求される場合を除き、本リリースの発表後に発生した出来事または変化によって、今後の見通しに関する陳述を更新する義務を負わないものとします。

アッヴィ  
主要製品の売上高  
第2四半期（2015年6月30日終了）  
（未監査）

	売上高（単位：100万米ドル）			前年同期比				
							米国外	
	米国	米国外	合計	米国	調整後	調整前	調整後	調整前
純収益	\$3,370	\$2,105	\$5,475	27.3%	10.2%	(7.6%)	19.4%	11.1%
Humira	2,141	1,396	3,537	28.9	3.6	(14.3)	16.4	7.6
Imbruvica	97	10 <sup>a</sup>	107 <sup>b</sup>	n/m	n/m	n/m	n/m	n/m
Viekira	227	158	385	n/m	n/m	n/m	n/m	n/m
Creon	159	--	159	44.6	n/a	n/a	44.6	44.6
Synagis	-	46	46	n/a	(25.6)	(37.2)	(25.6)	(37.2)
Lupron	156	42	198	17.2	(8.5)	(20.4)	9.9	6.5
Synthroid	187	--	187	11.9	n/a	n/a	11.9	11.9
Kaletra	43	124	167	(22.4)	(13.5)	(22.7)	(15.8)	(22.6)
AndroGel	170	--	170	(22.1)	n/a	n/a	(22.1)	(22.1)
Sevoflurane	20	98	118	(12.6)	(13.5)	(25.5)	(13.3)	(23.6)
Duodopa	3	52	55	n/m	17.3	(5.6)	20.9	(2.0)

注：「調整後」の数値には、為替変動の影響を排除した前年同期比の変化率が反映されています。

n/a = 該当なし

n/m = 無意味

a Imbruvicaの米国外の売上高に関する利益分配が反映されています。

b 5月26日に完了したPharmacyclics社買収に基づく、四半期中中以降のImbruvicaの収益が反映されています。第2四半期を通じた米国での売上高は2億3400万ドルでした。

アッヴィ  
主要製品の売上高  
中間期（2015年6月30日終了）  
（未監査）

	売上高（単位：100万米ドル）			前年同期比				
							米国外	
	米国	米国外	合計	米国	調整後	調整前	調整後	調整前
純収益	\$6,020	\$4,495	\$10,515	23.5%	13.4%	(2.6%)	18.6%	10.8%
Humira	3,805	2,843	6,648	33.4	8.8	(7.5)	20.7	12.2
Imbruvica	97	10 <sup>a</sup>	107 <sup>b</sup>	n/m	n/m	n/m	n/m	n/m
Viekira	365	251	616	n/m	n/m	n/m	n/m	n/m
Creon	286	--	286	31.9	n/a	n/a	31.9	31.9
Synagis	--	381	381	n/a	2.2	(11.0)	2.2	(11.0)
Lupron	306	84	390	12.0	(7.0)	(17.5)	6.9	4.0
Synthroid	373	--	373	15.3	n/a	n/a	15.3	15.3
Kaletra	84	263	347	(23.0)	(1.1)	(12.9)	(6.9)	(15.6)
AndroGel	323	--	323	(31.7)	n/a	n/a	(31.7)	(31.7)
Sevoflurane	38	206	244	(8.2)	(7.7)	(19.0)	(7.8)	(17.5)
Duodopa	3	105	108	n/m	18.1	(2.4)	20.3	(0.2)

注：「調整後」の数値には、為替変動の影響を排除した前年同期比の変化率が反映されています。

n/a = 該当なし

n/m = 無意味

a Imbruvicaの米国外の収益に関する利益分配を反映しています。

b 5月26日に完了したPharmacyclics社買収によるImbruvicaの収益が反映されています。

アツヴィ

連結損益計算書

第2四半期及び中間期（2014および2015年6月30日終了）

（未監査、1株当たりのデータ以外は100万米ドル単位）

	第2四半期 (6月30日終了)		中間期 (6月30日終了)		
	2015	2014	2015	2014	
純収益	\$5,475	\$4,926	\$10,515	\$9,489	
売上原価	916	1,113	1,858	2,213	
販売費および一般管理費	1,703	1,448	3,176	2,788	
研究開発費	981	834	1,792	1,606	
外部調達による仕掛研究開発費	23	16	150	16	
営業経費合計	3,623	3,411	6,976	6,623	
営業利益	1,852	1,515	3,539	2,866	
支払利子（正味）	164	69	290	134	
正味為替差損	14	5	178	8	
その他（利益）費用（正味）	(4)	8	(3)	5	
法人税控除前利益	1,678	1,433	3,074	2,719	
法人税等	312	335	686	641	
純利益	\$1,366	\$1,098	\$2,388	\$2,078	
希薄化後1株当たり利益	\$0.83	\$0.68	\$1.47	\$1.29	
希薄化後1株当たり利益（特定項目を除く）	\$1.08	\$0.82	\$2.03	\$1.53	a)
平均希薄化後発行済株式数	1,633	1,608	1,621	1,608	

a) 詳細は、「GAAP調整前から非GAAP調整後への調整に関する情報」を参照のこと。

アツヴィ

GAAP調整前から非GAAP調整後への調整に関する情報

第2四半期（2015年6月30日終了）

（未監査、1株当たりのデータ以外は100万米ドル単位）

1. 業績に影響した特定項目を以下に示します。

	2015年度第2四半期		
	純利益		希薄化後EPS
	税引前	税引後	
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$1,678</b>	<b>\$1,366</b>	<b>\$0.83</b>
特定項目を調整：			
無形固定資産の償却	86	66	0.04
分社化費用	95	80	0.05
外部調達による仕掛研究開発費	23	23	0.01
Pharmacyclics社との取引およびその他の費用	359	215	0.13
その他	34	26	0.02
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$2,275</b>	<b>\$1,776</b>	<b>\$1.08</b>

無形固定資産の償却は、ライセンス活動および買収活動の結果として計上した費用を反映しています。分社化費用とは、アツヴィのAbbott社からの分社化に関連するものです。外部調達による仕掛研究開発費は、主に第三者とのライセンス契約に関連した前払い金を反映しています。Pharmacyclics社との取引およびその他の費用は、取引、融資、統合およびPharmacyclics社の買収に関連するその他の費用を反映しています。その他は主に、支払利子に関連するものです。

2. 各特定項目の影響を以下に示します。

	2015年度第2四半期				
	売上原価	販売費および一般管理費	研究開発費	外部調達による仕掛研究開発費	支払利子
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$916</b>	<b>\$1,703</b>	<b>\$981</b>	<b>\$23</b>	<b>\$164</b>
特定項目を調整：					
無形固定資産の償却	(86)	--	--	--	--
分社化費用	(2)	(93)	--	--	--
外部調達による仕掛研究開発費	--	--	--	(23)	--
Pharmacyclics社との取引およびその他の費用	(19)	(220)	(93)	--	(27)
その他	(3)	(15)	(16)	--	--
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$806</b>	<b>\$1,375</b>	<b>\$872</b>	<b>--</b>	<b>\$137</b>

3. 以下に詳細を示すとおり、2015年度第2四半期の調整後税率は21.9%でした。

	2015年度第2四半期		
	法人税控除前	法人税	税率
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$1,678</b>	<b>\$312</b>	<b>18.6%</b>
特定項目	597	187	31.3%
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$2,275</b>	<b>\$499</b>	<b>21.9%</b>

アッヴィ

GAAP調整前から非GAAP調整後への調整に関する情報

第2四半期（2014年6月30日終了）

（未監査、1株当たりのデータ以外は100万米ドル単位）

1. 業績に影響した特定項目を以下に示します。

	2014年度第2四半期		
	純利益		希薄化後EPS
	税引前	税引後	
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$1,433</b>	<b>\$1,098</b>	<b>\$0.68</b>
特定項目を調整：			
無形固定資産の償却	99	69	0.04
分社化費用	110	96	0.06
研究開発費	40	40	0.02
外部調達による仕掛研究開発費	16	16	0.01
事業再編/その他	12	11	0.01
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$1,710</b>	<b>\$1,330</b>	<b>\$0.82</b>

無形固定資産の償却は、ライセンス活動および買収活動の結果として計上した費用を反映しています。無形固定資産の償却は、ライセンス活動および買収活動の結果として計上した費用を反映しています。分社化費用とは、アッヴィのAbbott社からの分社化に関連するものです。研究開発費は、過去に発表した業務提携に対するマイルストーンペイメントに関連しています。外部調達による仕掛研究開発費は、第三者とのライセンス契約に関連した前払い金を反映しています。事業再編/その他は、過去に発表した再編活動に関連するものです。

2. 各特定項目の影響を以下に示します。

	2014年度第2四半期			
	売上原価	販売費および一般管理費	研究開発費	外部調達による仕掛研究開発費
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$1,113</b>	<b>\$1,448</b>	<b>\$834</b>	<b>\$16</b>
特定項目を調整：				
無形固定資産の償却	(99)	--	--	--
分社化費用	(3)	(106)	(1)	--
研究開発費	--	--	(40)	--
外部調達による仕掛研究開発費	--	--	--	(16)
事業再編/その他	(6)	(6)	--	--
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$1,005</b>	<b>\$1,336</b>	<b>\$793</b>	<b>--</b>

3. 以下に詳細を示すとおり、2014年度第2四半期の調整後税率は22.2%でした。

	2014年度第2四半期		
	法人税控除前	法人税	税率
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$1,433</b>	<b>\$335</b>	<b>23.4%</b>
特定項目	277	45	16.2%
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$1,710</b>	<b>\$380</b>	<b>22.2%</b>



アッヴィ

GAAP調整前から非GAAP調整後への調整に関する情報

中間期（2015年6月30日終了）

（未監査、1株当たりのデータ以外は100万米ドル単位）

1. 業績に影響した特定項目を以下に示します。

	2015年度中間期		
	純利益		希薄化後EPS
	税引前	税引後	
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$3,074</b>	<b>\$2,388</b>	<b>\$1.47</b>
特定項目を調整：			
無形固定資産の償却	154	118	0.07
分社化費用	199	169	0.10
外部調達による仕掛研究開発費	150	150	0.09
Pharmacyclics社との取引およびその他の費用	420	256	0.16
Shire社提携解消費用	170	170	0.10
その他	68	49	0.04
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$4,235</b>	<b>\$3,300</b>	<b>\$2.03</b>

無形固定資産の償却は、ライセンス活動および買収活動の結果として計上した費用を反映しています。無形固定資産の償却は、ライセンス活動および買収活動の結果として計上した費用を反映しています。分社化費用とは、アッヴィのAbbott社からの分社化に関連するものです。外部調達による仕掛研究開発費は、主にC2Nとの業務提携を反映しています。Pharmacyclics社との取引費用およびその他の費用は、取引、融資、統合、およびPharmacyclicsの買収に関連するその他の費用を反映しています。Shire社提携解消費用は、2014年度第4四半期で発表した通り、終了したShire社との取引に関連する、残りの外貨ポジションの精算完了を反映しています。その他は主に、事業再編活動に関連するものです。

2. 各特定項目の影響を以下に示します。

	2015年度中間期					
	売上原価	販売費および一般管理費	研究開発費	外部調達による仕掛研究開発費	支払利子	外国為替差損益
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$1,858</b>	<b>\$3,176</b>	<b>\$1,792</b>	<b>\$150</b>	<b>\$290</b>	<b>\$178</b>
特定項目を調整：						
無形固定資産の償却	(154)	--	--	--	--	--
分社化費用	(5)	(194)	--	--	--	--
外部調達による仕掛研究開発費	--	--	--	(150)	--	--
Pharmacyclics社との取引およびその他の費用	(19)	(222)	(93)	--	(86)	--
Shire社提携解消費用	--	--	--	--	--	(170)
その他	(12)	(40)	(16)	--	--	--
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$1,668</b>	<b>\$2,720</b>	<b>\$1,683</b>	<b>--</b>	<b>\$204</b>	<b>\$8</b>

3. 以下に詳細を示すとおり、2015年度前半の調整後税率は22.1%でした。

	2015年度中間期		
	法人税控除前	法人税	税率
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$3,074</b>	<b>\$686</b>	<b>22.3%</b>
特定項目	1,161	249	21.4%
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$4,235</b>	<b>\$935</b>	<b>22.1%</b>



アッヴィ

GAAP調整前から非GAAP調整後への調整に関する情報

中間期（2014年6月30日終了）

（未監査、1株当たりのデータ以外は100万米ドル単位）

1. 業績に影響した特定項目を以下に示します。

	2014年度中間期		
	純利益		希薄化後EPS
	税引前	税引後	
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$2,719</b>	<b>\$2,078</b>	<b>\$1.29</b>
特定項目を調整：			
無形固定資産の償却	209	148	0.09
分社化費用	190	184	0.11
研究開発費	40	40	0.02
外部調達による仕掛研究開発費	16	16	0.01
事業再編／その他	16	14	0.01
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$3,190</b>	<b>\$2,480</b>	<b>\$1.53</b>

無形固定資産の償却は、ライセンス活動および買収活動の結果として計上した費用を反映しています。無形固定資産の償却は、ライセンス活動および買収活動の結果として計上した費用を反映しています。分社化費用とは、アッヴィのAbbott社からの分社化に関連するものです。研究開発費は、過去に発表した業務提携に対する目標達成報奨金に関連しています。外部調達による仕掛研究開発費は、サードパーティーとのライセンス契約に関連した前払い金を反映しています。事業再編／その他は、過去に発表した再編活動に関連するものです。

2. 各特定項目の影響を以下に示します。

	2014年度中間期			
	売上原価	販売費および一般管理費	研究開発費	外部調達による仕掛研究開発費
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$2,213</b>	<b>\$2,788</b>	<b>\$1,606</b>	<b>\$16</b>
特定項目を調整：				
無形固定資産の償却	(209)	--	--	--
分社化費用	(6)	(182)	(2)	--
研究開発費	--	--	(40)	--
外部調達による仕掛研究開発費	--	--	--	(16)
事業再編／その他	(7)	(9)	--	--
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$1,991</b>	<b>\$2,597</b>	<b>\$1,564</b>	<b>--</b>

3. 以下に詳細を示すとおり、2014年度前半の調整後税率は22.3%でした。

	2014年度中間期		
	法人税控除前	法人税	税率
<b>調整前 (GAAP)</b>	<b>\$2,719</b>	<b>\$641</b>	<b>23.6%</b>
特定項目	471	69	14.6%
<b>調整後 (非GAAP)</b>	<b>\$3,190</b>	<b>\$710</b>	<b>22.3%</b>

さらなる詳細情報に関しては、報道関係者はAdelle Infante : (847) 938-8745、投資家の皆様はLarry Peepo : (847) 935-6722またはLiz Shea : (847) 935-2211までご連絡ください。